

介護ロボット・ICT導入後の経過報告について

令和4年度（令和5年3月31日）、グループホーム3事業所（グループホームみのり／グループホームニューみのり／グループホーム船見坂みのり）において、介護ロボット（パラマウントベッド株式会社 眠りSCAN）およびICT（NDソフトウェア株式会社 ほのぼのNEXT Care Palette）を導入しています。

<介護ロボット導入のねらい>

センサーをマットレスの下に敷きこむだけで、利用者の呼吸数や脈拍数、睡眠状態、覚醒、起き上がり、離床動作などを遠隔でもリアルタイムで把握することができるセンサーです。

夜間の見守りや生活状態の把握などに利用することができ、利用者の安全性向上と介護者の負担軽減のために活用します。

<介護ロボット導入の効果>

職員へのアンケートの結果は、下記の通りとなっています。

【グループホームみのり】

- ・介護ロボット導入により1回の業務内における見守り回数が22.2%減少
- ・介護ロボット導入により負担が軽減されたと感じている職員の割合が55.6%
- ・介護ロボット導入に効果を感じている職員の割合が83.4%

【グループホームニューみのり】

- ・介護ロボット導入により1回の業務内における見守り回数が3.3%減少
- ・介護ロボット導入により負担が軽減されたと感じている職員の割合が53.3%
- ・介護ロボット導入に効果を感じている職員の割合が80.0%

【グループホーム船見坂みのり】

- ・介護ロボット導入により1回の業務内における見守り回数が10.9%減少
- ・介護ロボット導入により負担が軽減されたと感じている職員の割合が71.4%
- ・介護ロボット導入に効果を感じている職員の割合が100.0%

また、具体例としては、下記のような効果がありました。

・夜間の睡眠状態（睡眠日誌）を把握することで、就寝前のトイレの声かけのタイミング、就寝時間内の声かけやパッド交換のタイミング、適切なパッドの種類を選択ができ、眠っている間に目を覚ます回

数が少なくなりました。

・夜間の睡眠状態（眠っているようで実は全然眠れていなかった）を把握することで、就寝前の睡眠導入剤の服用のタイミングを調整し、睡眠の質を改善することで就寝時間と起床時間が規則的になり、生活リズムが安定しました。

・臥床、入眠、離床の様子から生活リズムが把握できるので、個々の状態にあわせて介助と見守りをメリハリつけてケアができるようになり、業務の負担感が軽減しました。

<ICT 導入のねらい>

ノートパソコンやタブレットを使用して記録することで、記録にかかる時間を短縮し、その分の時間を介護サービスの質の向上のための取り組みに振り分けることができます。

また、情報を一元管理することで、情報共有がしやすくなるとともに、情報を活かしたケア（経験と勘に頼ったケアから、客観的なデータなどにもとづく根拠を持ったケア）が実現できるようになります。

<ICT 導入の効果>

職員へのアンケートの結果は、下記の通りとなっています。

【グループホームみのり】

- ・ ICT 導入により 1 回の業務内における記録にかかる時間が 2.8%減少
- ・ ICT 導入により業務負担感が 53.0%改善
- ・ ICT 導入に効果を感じている職員の割合が 77.8%

【グループホームニューみのり】

- ・ ICT 導入により 1 回の業務内における記録にかかる時間が 6.7%減少
- ・ ICT 導入により業務負担感が 15.5%改善
- ・ ICT 導入に効果を感じている職員の割合が 60.0%

【グループホーム船見坂みのり】

- ・ ICT 導入により 1 回の業務内における記録にかかる時間が 7.1%減少
- ・ ICT 導入により業務負担感が 3.7%改善
- ・ ICT 導入に効果を感じている職員の割合が 100.0%

また、具体例としては、下記のような効果がありました。

・ 2 週間分の記録が iPad で確認でき、自分が休みの日の他スタッフの対応や入居者の様子が一目でわかるので、情報共有という点でとても役立っています。

・ 記録を紙に手書きしていたときは、必要な情報を探し出すのに手間がかかっていたが、ICT 導入により、必要なとき必要な情報を素早く見られるようになりました。